

モテる会話の原理を理解する～会話の基礎知識編～

(1) 会話の質を決定する4つの柱

会話には、方向性を決める上で

着目すべき『**4つの柱**』が存在します。

もしも、モテる会話を成立させたかったら、

下記の4つの項目を柱として

会話を組み立てていくと良いでしょう。

【会話の質を決定する4つの柱】

- ① 誰に話すか？？
- ② 誰が話すか？？
- ③ 何を話すか？？
- ④ どのように話すか？？

そして、会話の質は、

これら4つの項目が掛け合わさって導き出されます。

【会話の質を決定する公式】

『誰に（話すか??）』×『誰が（話すか??）』×『何を（話すか??）』
×『どのように（話すか??）』=『会話の質』

試しにこの公式に、

具体的なキーワードを入れてみましょうか。

今回は、私が一人のとある女性との会話を想定して、

それぞれの箇所にキーワードを当てはめていきます。

『誰に（話すか??）』 ⇒ 『**女性に**（話す）』

『誰が（話すか??）』 ⇒ 『**レイが**（話す）』

『何を（話すか??）』 ⇒ 『**人生観を**（話す）』

『どのように（話すか??）』 ⇒ 『**語るように**（話す）』

上記のパーツを全て繋げると・・・

『女性にレイが人生観を語るように話す』

このような結果になります。

どうでしょう？ ?

キーワードを当てはめただけで

ザックリとではありますが、

一つの会話の方向性が浮かび上がりました。

これだけでも一つの会話スタイルとして

実際のデートで使えそうな気がしますが、

更に会話の質を上げるためには、

個々のキーワードの内容を深掘りしていく必要があります。

例えば、下記のように修飾語を追加して

会話スタイルの具体性を高めていくのです。

『誰に（話すか??）』 ⇒ 『**30代の** + 女性に（話す）』

『誰が（話すか??）』 ⇒ 『**真面目な** + レイが（話す）』

『何を（話すか??）』 ⇒ 『**結婚後の** + 人生観を（話す）』

『どのように（話すか??）』 ⇒ 『**熱く** + 語るように（話す）』

↓ ↓ ↓

『**30代の女性に真面目なレイが結婚後の人生観を
熱く語るように話す**』

先ほどの会話スタイルの一文よりも、

会話をしている景色が鮮明に浮かび上がってきたのがわかるでしょうか？？

更には、具体的にどんなニュアンスで会話をしていけばいいか、

より明確に方向性が固まってきました。

当然、ここから更に修飾語を追加していけば

より具体的に、

より方向性の際立った

会話スタイルを導き出すことが出来るのです。

ちなみに、

- 誰に話すか？？
- 誰が話すか？？
- 何を話すか？？
- どのように話すか？？

これら4つの項目を埋めていく上で

守るべき順序があります。

数学の公式にも

“解を導き出す為の解き方の一定のルール”

が設けられているように、

会話の公式においても、

同じように順序立ててキーワードを

埋め込んでいく必要があるのです。

では、そのルールとは一体何か??

それは、

A. 『誰に（話すか??）』 ⇒ ???

B. 『誰が（話すか??）』 ⇒ ???

という、これら二つの項目を先に導き出していくこと。

そして、A & Bにハマ込んだキーワードをもとに、

残りの

C. 『何を（話すか??）』 ⇒ ???

D. 『どのように（話すか??）』⇒ ???

を完成させていくのです。

何故なら、デートにおいて、

A. 『誰に（話すか??）』 ⇒ ???

B. 『誰が（話すか??）』 ⇒ ???

というA & Bの中身は、

『会話の話し手&聞き手となる“プレイヤー”』

に該当するわけで、

C. 『何を（話すか??）』 ⇒ ???

D. 『どのように（話すか??）』⇒ ???

というC & Dの中身に対して、

『プレイヤーの能力や属性によって内容が変化するといった“主従関係”』

にあるからです。

・・・ということで

A、B、C、Dの項目をそれぞれ分類すると

下記のようなグループ分けになります。

=====

【主グループ】

A. 『誰に（話すか??）』 ⇒ ???

B. 『誰が（話すか??）』 ⇒ ???

【従グループ】

C. 『何を（話すか??）』 ⇒ ???

D. 『どのように（話すか??）』⇒ ???

=====

さて、ここまで

A、B、C、Dを二つのグループに大別しましたが、

今一度、『A + B』と『C + D』が

“主従関係”にあることを念頭に

次の質問を考えてみてください。

仮に、“主グループ (A+B)”と“従グループ (C+D)”が
それぞれ下記のような条件だったとして

矛盾を生じることなく会話の公式が成立するでしょうか？？

=====

【主グループ】

A. 『誰に (話すか??) 』 ⇒ 『**20代のギャルに**』

B. 『誰が (話すか??) 』 ⇒ 『**アパレル出身の男性が**』

【従グループ】

C. 『何を (話すか??) 』 ⇒ 『**数学のテーマを**』

D. 『どのように (話すか??) 』⇒ 『**講義のように**』

↓ ↓ ↓

『**20代のギャルに (A) +アパレル出身の男性が (B) +数学のテーマ
を (C) +講義のように (D) +話す**』

=====

常識で考えれば、

20代のギャルが数学の話に興味を持つとは到底思えませんし、

デート中に講義をおっぱじめられても

すぐに飽きられることは容易に想像ができます。

尚且つ、男性がアパレル出身ということで

数学を語れるだけの知識が無い可能性がありますので、

そもそも講義を始める以前の問題となってくるでしょう。

誰が見ても先程の条件では、

『A + B』と『C + D』の内容の相性が悪い為公式が成り立たない

ことが理解できるかと思います。

ですから、4つの柱にキーワードを当てはめる順序として、

必ず先に“主グループ (A + B)”の条件を決定していき、

その後に“従グループ (C + D)”の条件を導き出していくこと。

もちろん、“従グループ (C + D) ”の条件は、
“主グループ (A + B) ”と関連性があるような内容にしていくことが
モテる会話の導く上では欠かせない視点となります。

そう考えると、“従グループ (C + D) ”の中身は、
下記の“主グループ (A + B) ”の条件下で
どのような答えを導き出したらいいのか？？

=====

【主グループ】

- A. 『誰に (話すか??) 』 ⇒ 『20代のギャルに』
B. 『誰が (話すか??) 』 ⇒ 『アパレル出身の男性が』

=====

ここでは単純に、『誰に』が『20代のギャルに』になるわけですから、

彼女が“興味を持ちそうな話題”や“ウケのいい話し方”

を想像すればいいことですし、

『誰が』が『アパレル出身の男性が』になるわけですから、

彼が“語れそうな話題”や“得意な話し方”

を掘り起こせばいいでしょう。

そこで、より精度の高い導き出し方として

『20代のギャル』×『アパレル出身の男性』= ???

という捉え方で、

二つの共通点探しをする方法が一つ挙げられます。

例えば、

『20代のギャル』

と

『アパレル出身の男性』

であれば、

“ファッション”のテーマなんか

良い感じで共有できそうですよね。

ターゲットのギャルは、

人目を気にしがちでお洒落に興味を持ちやすい華の20代女性。

片や、アパレル出身で誰よりも服に精通している男性。

普通に考えたら、“数学”のような大博打テーマをぶっ込むよりも、

遥かに精度の高く実態に即したテーマ選びだと言えるのではないのでしょうか？

…ということで、

【C. 『何を（話すか??）』】は、

『ファッションのテーマを』

が模範解答となるでしょう。

しかも、“ファッション”であれば男性の専売特許なわけですから、色んな語り口で会話を広げられるはずですよ。

専門家風に講義のように語るもよし。

販売員風に相手を口説くように語るもよし。

ある程度男性の会話スタイルにレパートリーがあるのならば、ターゲットに合わせて会話スタイルを選んでいくことが賢い立ち回りであると言えるわけです。

そうすると、【D. 『どのように（話すか??）』】も自ずと答えが割り出されていきます。

相手が『20代のギャル』だとわかっているのです、ここでは、

『販売員風に相手を口説くように語る』

が一つの模範解答となります。

ユーモアを交えたり、ターゲットのチャームポイントを褒めたりして、感情を揺さぶるようにファッションのテーマを絡めていくのです。

・・・さて、一旦まとめます。

今までの設定をもとに

改めて会話の公式に当てはめていくと・・・

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【主グループ】

A. 『誰に（話すか??）』 ⇒ 『**20代のギャルに**』

B. 『誰が（話すか??）』 ⇒ 『**アパレル出身の男性が**』

【従グループ】

C. 『何を（話すか??）』 ⇒ 『ファッションのテーマを』

D. 『どのように（話すか??）』⇒ 『販売員風に相手を口説くように』

↓ ↓ ↓

『20代のギャルに（A） + アパレル出身の男性が（B） +
ファッションのテーマを（C） + 販売員風に相手を口説くように（D） +
語る』

=====

という具合になります。

ん～、今回のキーワードの構成であれば、

ある程度会話スタイルに一貫性を感じられますね。

しっかりと、『20代のギャル』という聞き手と

『アパレル出身の男性』という話し手のタイプを意識して、

『ファッション』×『販売員トーク』

という一つの会話スタイルを導き出しています。

このように、会話の方向性を模索する際は、

何もない状態からホワ〜ンと考えるのではなく、

会話の公式が下記であるように・・・

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

『誰に（話すか??）』×『誰が（話すか??）』×『何を（話すか??）』
×『どのように（話すか??）』=『会話の質』

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

聞き手となるターゲットは誰なのか??

話し手となるあなた自身はどんな人物なのか??

そして、

二人のプレイヤー（聞き手&話し手）にマッチする

会話のテーマや話し方はどんな方向性が好ましいのか？？

を考えていく必要があるのです。

何度も言うように、

会話とは相手と自分があって初めて成立するコミュニケーション。

常に相手の立場に立って

物事を考えていく癖をつけていきましょう。